

令和6年度 看護部新入職員年間教育計画

- 1年後到達目標 : 1. 組織人、看護専門職としての自覚を持ち行動することができる  
 2. 看護に対して自己の考えを述べることができ、関係者と情報交換できる  
 3. 基本的な援助技術を習得し、安全安楽な看護を提供することができる

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人を尊重した患者中心の関りを通し、患者の理解、家族との良好な信頼関係を築いていきます</li> <li>組織における役割を理解し、看護職員として自覚と責任のある行動をします</li> <li>安全・安楽な最良の看護を提供するために生涯にわたる主体的な自己学習の継続を行います</li> </ul>					
成長段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>職場の雰囲気や仕事になじみ、チームの一員として周囲との人間関係を良好に保つことができる(職場への適応と職業人としての適応の段階)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活援助や診療に伴う援助を中心とした直接的な看護ケアにおいて、コミュニケーション、知識や判断、看護技術が統合される段階(自立への準備段階)</li> </ul>		
新人の心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>非常に緊張した状態に置かれているため自分から話しかけられない時期</li> <li>周囲となじめるか不安な時期</li> <li>覚悟している仕事とそれ以上に厳しい仕事とのギャップを抱く時期</li> <li>疲れがたまる時期</li> <li>できないことが多く落ち込む時期(何を勉強したらいいのか分からない、何を聞いたらいいのか分からない、何をメモすればいいのか分からない、自分が他者より劣っていると考えてしまう)</li> </ul>					
新人目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護部の理念・基本方針を理解できる</li> <li>部署内の物の配置がわかる</li> <li>助言を受けながら患者の情報を収集することができる</li> <li>研修に参加することができる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>助言を受けながら優先順位をつけ、ケアを行うことができる</li> <li>チームの一員として関係者と協働し情報を共有することができる</li> <li>助言を受けながら、患者、家族とのコミュニケーションが図れ、思いや希望を聞き取ることができる</li> <li>出来ない事は指導者に聞き、患者を優先に考え行動する</li> </ul>		
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>病棟に溶け込めるように配慮する</li> <li>新人の居場所をつくる</li> <li>声掛けを積極的に行う</li> <li>承認・傾聴の姿勢で関わる</li> <li>新人の特徴を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>疲れやストレスに気を配る</li> <li>指導は必ずマニュアル通りに行う</li> <li>相談しやすい環境をつくる、側にいて気持ちをわかってあげる</li> <li>計画的に技術を体験させる</li> <li>計画的に技術を習得できるように援助する</li> <li>新人のできたことを認め伝える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>技術の習得度によって所属長と業務についての相談を繰り返す</li> <li>何でもできるスーパー看護師ではなく手の届く手本となる(ロールモデル)</li> <li>勤務が違って声掛けを行う。チェックリストの確認、到達状況を把握する</li> <li>新人が困っていることに対して同じ目線で一緒に考え気付けさせる(話を聴く)</li> <li>患者さんとの関りで良かったこと、できるようになったことを伝える</li> </ul>			

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
基本姿勢	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人を尊重した患者中心の関りを通し、患者の理解、家族との良好な信頼関係を築いていきます</li> <li>組織における役割を理解し、看護職員として自覚と責任のある行動をします</li> <li>安全・安楽な最良の看護を提供するために生涯にわたる主体的な自己学習の継続を行います</li> </ul>					
成長段階	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活援助や診療に伴う援助を中心とした直接的な看護ケアにおいて、知識や判断、コミュニケーション、看護技術が統合される段階(自立への準備段階)</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>チームの一員として責任ある適切な行動と安全・安楽な看護技術の提供が行える段階(チームの一員としての役割を果たす段階)</li> </ul>		
新人の心理	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤に入り日勤とは違う緊張感や責任感があり不安な時期、夜勤前に睡眠がとれない</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>1年が経ち後輩が入ってくるけど先輩としてやっていけるかなど不安の時期</li> </ul>		
新人目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>夜勤がひとり立ちでき、医療チームの一員として実践する</li> <li>助言を受けながら急変時の対応ができる</li> <li>助言を受け、基本的な看護実践を安全・安楽に実施する</li> <li>組織における役割を理解することができ、行動に移すことができる</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>患者の多重課題に対して優先度を判断し、指導者に相談のうえ援助する</li> </ul>		
指導のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>相談しやすい環境をつくる、側にいて気持ちをわかってあげる</li> <li>計画的に技術を習得できるように援助する</li> <li>技術の習得度によって所属長と業務についての相談を繰り返す</li> <li>何でもできるスーパー看護師ではなく手の届く手本となる(ロールモデル)</li> <li>勤務が違って声掛けを行う。チェックリストの確認、到達状況を把握する</li> <li>新人が困っていることに対して同じ目線で一緒に考え気付けさせる(話を聴く)</li> <li>患者さんとの関りで良かったこと、できるようになったことを伝える</li> </ul>					<ul style="list-style-type: none"> <li>1年間の成長を伝え次年度に向け自信をつけられる関わり</li> </ul>